

長崎県観光動向調査 (平成31年1～3月分)

● 主要指標

平成31年1～3月

	対象 施設	延べ宿泊客 利用者数	H31-H30 同期比	
			増減率	増減数
主要宿泊施設	154	1,120千人	▲ 0.5%	▲ 6千人
主要観光施設	26	1,833千人	▲ 2.6%	▲ 49千人

	主要宿泊施設 客室稼働率	前年同期比 (ポイント)
1～3月累計	64.1%	▲ 1.6
1月	52.8%	▲ 2.1
2月	69.6%	+ 1.4
3月	70.4%	▲ 3.6

● 概況

- 主要宿泊施設の宿泊客数は、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録効果に伴う五島ブロックなどへの旅行需要の高まりは見受けられたものの、大型施設の閉館・休館や、国内及び台湾の団体ツアー客が減少していることの影響などから、1～3月期は対前年同期比▲0.5%となった。
- 主要観光施設の利用者数は、昨年に比べ天候に恵まれたものの、旧グラバー住宅の保存修理工事や台風被害による端島（軍艦島）の上陸停止、ハウステンボスの外国人団体客などの減少の影響により、1～3月期は対前年同期比▲2.6%となった。

ブロック別の主な増減要因

【長崎・西彼ブロック】

旧グラバー住宅の保存修理工事や台風被害に伴う端島（軍艦島）の上陸停止などにより、主要観光施設全体の利用者数は対前年減となった。宿泊客数は、昨年リニューアル工事で休館していた大型施設が堅調であったことなどから、1～3月期は対前年同期比+4.9%となった。

【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

外国人団体客の減などからハウステンボスの入場者数は減少したものの、昨年に比べ天候に恵まれたことなどによりその他の主要観光施設の利用者数は対前年増となった。宿泊客数は、国内及び台湾の団体ツアー客が昨年より減少したことなどから、1～3月期は対前年同期比▲10.9%となった。

【平戸・松浦ブロック】

ビジネス需要は堅調に推移したものの、昨年が大型施設のリニューアル効果で大幅増となっていたことなどから、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比▲0.3%となった。

【諫早・大村ブロック】

整備点検に伴い一時休館した宿泊施設の影響などから、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比▲0.4%となった。

【島原半島ブロック】

大型施設の閉館・休館の影響はあったものの、昨年リニューアルオープンした大型施設が堅調であったことなどにより、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+0.1%となった。

【五島ブロック】

「潜伏キリシタン関連遺産」の世界文化遺産登録に伴う五島ブロックへの旅行需要の高まりにより、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+22.3%と2期連続で大幅増となった。

【吉岐ブロック】

しまとく通貨とのタイアップによる旅行商品の販売が堅調であったことなどから、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+5.1%となった。

【対馬ブロック】

韓国人客の入込が引き続き堅調であったことが大きく、1～3月期の宿泊客数は対前年同期比+18.2%となった。

【参考】外国人観光客（宿泊客）の動向

1～3月期の外国人宿泊客数は対前年同期比+3.7%となった。

主要な国・地域別に状況を見ると、台湾は団体ツアー客減などの影響により減少したものの、長崎－香港線の就航に伴い香港が大幅増となったこと、対馬への韓国の入込が大幅に伸びたこと、個人旅行需要が高まっている中国が堅調に推移したことから、1～3月期は対前年増となった。

(参考資料)



